

令和8年度 稲沢市地域自立支援協議会 第1回地域生活支援部会 議事要旨

【日 時】 令和8年5月21日（木）午後2時～午後3時15分

【場 所】 稲沢市役所 東庁舎 1階 会議室8

【出席者】 地域生活支援部会委員 6名 事務局 5名

【欠席者】 なし

【議 事】

あいさつ

1 協議事項

(1) 地域生活支援拠点の充実（不足部分の充実）

- 1) 令和7年度の取り組みについて
- 2) 令和8年度の取り組み（案）
- 3) 登録事業所の現状
- 4) 緊急時対応登録者一覧

部会長 グループホームからの卒業という話があったが、部会員の皆さんのグループホームで取組みはあるか。

委員A ここ数年でグループホームから移行されたかたが数名いる。2、3人は介護施設に入居し、他市の県営住宅に入居されたかたが1人いる。1年ほどかけて、世話人が利用者の抱える不安を聞いたり、早い段階で計画相談の引き継ぎを行い、土地勘のある相談支援専門員に移行していったケースがある。

また、空き家となっている実家に戻りたいという希望があった利用者は、週に1日程度、実家に戻り、どこが大変だったかなど聞き取りをするなどして進めた。

委員B 以前、長期入院していた女性が、退院に際し、実家での一人暮らしはむずかしいということで、グループホームに移行し、自信をつけて実家に戻られたケースがある。また、同じデイケア利用者どうしで結婚しグループホームを退去したケースもある。

事務局 このように取り組んでいる事業所があることを、事業所連絡会などで共有できるといい。

部会長 拠点登録については、ハーフいなざわを目指し4割に近づいたが、事業所数が増えたこともあり、全体の3割ほどに減ってしまっている。昨年度、事務局が、緊急時対応登録者が普段利用している事業所に出向き、拠点登録のお願いをした。

部会メンバーでも登録促進に向けての働きかけができればいい。また、緊急時対応登録者一覧を活用し拠点登録を促していくことは、今後に向けても重要だと思う。

委員C 短期入所を利用している20～30代のかたがいる。徐々に利用日数を増やし、いず

これはグループホームでお世話になりたいと家族はおっしゃっている。入居予定時期を確認すると、どこかで区切りをつけなければと考えてはいるが、家で過ごせるうちはみたいと言われ、グループホームに預けることに後ろめたさや罪悪感すら感じるとおっしゃるかたもいる。30歳くらいまでにと考えていても、いざその時になったら受け入れ先がすぐ見つかるか不透明だ。

また、拠点登録をしているが、空きがなく他をあたっていただいたこともあった。まずは、事業所が増えることが大事ではないか。部会としてハーフいなざわを目指すことに向け、何かできることはないか。いろいろな事業所と連携しているため、未登録事業所にも声をかけていこうと思う。

部会長 拠点登録以外に、緊急時対応事業の障害児登録について、部会員の皆さんに意見を聞きたい。障害児の緊急の受け入れをしたケースはあるか。

委員D これまでではない。

委員C 緊急時のケースではない。障害福祉サービスの短期入所利用で小、中学生および高校生の受け入れはある。

部会長 今年度は、障害児の登録に取り組む予定か。

事務局 はじめに、ニーズを調べていきたい。者と児の緊急時は異なると考えられ、児のケースではどういうものを想定されるか考える必要がある。相談支援専門員からこれまで児の登録について、聞かれたことはあまりなかった。

者の場合、居宅介護もしくは短期入所の支給決定を受けたうえで、体験利用を依頼している。しかし、児の場合は、居宅介護よりは短期入所の利用を軸に、体験も兼ねて緊急時に備えられるようにと考えている。実際運用していくうえで相談支援専門員に意見をいただきたいと思っている。児を受け入れている短期入所事業所がそれほど多くないという実態があるので、ニーズと実態がどうなのか。

部会長 その話題以外に、自分が担当しているかたのなかに、緊急時対応登録している人が何名かおり、緊急連絡先は父にしている。父が動けないときに誰にフォローしてもらえるのか、そういったことがわかるようになっていくといい。

委員D 居宅介護事業所でも、緊急連絡者がいないから事業所で、と言われることがある。

部会長 相談支援専門員としては、キーパーソンというか、何かあった場合、家族以外に頼れる体制があるかないか知っておきたい。いなければ別の方法を検討するきっかけにもなる。

## (2) 災害時の対応等に関すること（関係機関の連携強化、意識統一等）

### 1) 令和8年度の取り組み（案）

- ・避難場所（安心できる避難場所の確保のための取り組み）
- ・情報発信（障害者向けの情報のまとめと周知）
- ・個別計画（個別の計画、マニュアル等の作成促進）

- 部会長 部会での成果物というのは、ガイドマップのようなものを想定するか。
- 事務局 地域生活支援部会でなにか災害に関する取組みのひとつとして、災害時の避難に向けたガイドマップを作るというのはどうかという案だ。
- 部会長 稲沢市はガイドマップを作っていないのか。
- 事務局 障害のあるかたに特化したものは作成していない。
- 委員D 例えば、難病のかたは、受給者証の更新時に保健所から対面で、災害時の注意などが記載されたチラシのようなものが渡される。単発でもらっても忘れてしまうことが多いので、定期的な何かがあるといいのではないか。
- 部会長 作りっぱなしになってしまい、忘れてしまう可能性はある。定期的に見直しをすることは必要かもしれない。1年では出来ないかもしれないが、せっかくなのでやり始めて少しでも形にできればいい。今年度は、ぜひ成果物を作り始めたい。
- 委員C 難病のかたがもらえるチラシは、保健所でももらえるのか。
- 委員D そのとおり。
- 委員C 自事業所にも難病の人がいて、保健所に申請に行っているが気づかなかった。
- 委員D 児と者でも内容が違うかもしれないが。

## 2 その他

- 部会長 以前、この部会で、事業所どうしの合同防災訓練のようなものができたらという話があがった。同地区内の事業所に声掛けして、合同の防災訓練ができたらいいなど話している。